

PLANET LIFE

http://planetzero.nobody.jp/sw

PLANET ZERO INFORMATION PRESS 100502 at KZKN petit only solve me!

mailADD : ai@planetzero.halfmoon.jp

カズケンフチオンリー【solve me!】開催おめでとございます！ PLANET ZERO 鷹村です。カズケンフチオンリー企画ののっかってスしぶりにペーパー作ってみました。以前は毎イベントごとにちょこちょこ作ってたんですけどね。何を書こうかと思って、せっかく集めてもらうんだから、やっぱりSSでしょ。と思いました。そんなわけで佳主馬が健二さんにフオーリラブした、その日の小話にしてみました。正直この辺の心の機微とがって、書き手的においしくてござさん！ な感じです。少しでもお楽しみいただけますように。ペーパー受け取ってください、ありがとうございました！ よい、フチオンリーを！

好き

健二は、この夏いきなり夏希が連れてきた人だった。かしらしい。と、聞いていたが翌日は犯罪者になっていた。それも屋過ぎまでのことで、今度は殊勲者になった。次の日は同志で、家族と世界と、佳主馬の命まで救ってしまう世界一のヒーローになった。もはや、陣内家では完全に「ウチの人」だ。なんだか立ち位置が変わりすぎてくらくなる。

どきどきも、する。

あらわしが落ちたその夜、夕方まで総出で片づけをして「さあ、ご飯食べましょう」ということになった。わざわざ半壊している広間にごさを広げてまで全員で揃って「いただきます」と言うのは、もちろん栄の遺言を守りたかったからだ。

健二はちょうど佳主馬が顔をあげた正面に座ったから、何の意識をしなくても、目の中に飛び込んでくる。別に意識的に健二を見ているわけではない。なのに。

「なに？ 佳主馬くん？ 僕の顔になんかついてる？」
無邪気に尋ねてくる健二はどうかしている。別に見てなんかいない。

そんな風にあえて訊かれるようなマネはしていない。みんなだっているのに。

「あれ？ なに、佳主馬顔紅くなってんだよ？」

「翔太兄い、うるさい」

「なんだとお？」

おかしい、と気づいたのはこのあたりだ。

年齢的には佳主馬に一番近い翔太がなにをわめこうがアピールしようが、そよ風程度にも感じない。なのに。

「佳主馬くん、でもホントに顔紅いよ？ 昼間がんぼったから、疲れちゃったんじゃない？ 一番大変だったもんね」

健二がそう言う、反論の声があざりふさがれる。

また顔が紅くなった。

「……ありがとう」

蚊の泣くような声でようやくそう言って塩むすびにかじりつく。なんだか、食欲もわいてこない。

「……なんか、やっぱり疲れてるのかも。お腹あんまりすかないや」

「大丈夫？ あんた、がんぼったんだもんね。早くお風呂入って寝ちゃいなさいよ」

夏希が真顔で言う。

そう言う夏希こそ、四億以上のアカウントを、ラブマシンの支配から救った女神だというのに。

(……なに、ちゃっかり健二さんの隣キープしてんの?)

一瞬わいた妙にねぼこい感情をスルーしかけて佳主馬はぎよつとした。

(なに？ 今の?)

「……」

今、自分はなにを考えてしまったのか。

(夏希姉ちゃんは僕のこと心配してくれただけなのに、なんで?)

視線を健二に移すと、心配そうな瞳でこちらを見ている。

心臓がぎゅつと収縮した。

(なに……これ?)

「佳主馬？ ホントに熱でもあるんじゃないの？ いいから、早く寝なさい。明日はお葬式とお誕生日会なんだから」

母が心配そうに言う。

「うん。ごめん……母さんはそのままご飯食べていいよ。ごちそうさま」

かじりかけの塩むすびだけ無理矢理麦茶で飲み込むと立ち上がる。

健二の視線が追いかけてくるようで、妙に勘ぐられないように注意しながらそろそろと廊下を通って納戸の方に向かう。

庭に面した母屋の一部は半壊したが、それ以外の部分は無事だったのは幸いだった。とにかく、なにより風呂に入れる。

「お風呂、入ろう……僕はなんかおかしいんだ」

のろのろと準備をし、のろのろと湯船に浸かった。

疲労しているのは本当だ。お湯に疲れが溶けていく感じがする。

口元まで湯に浸かると、佳主馬はつとめて冷静に考えてみる。(なんで、健二さん見て顔紅くなったんだろ?)

ちらりと顔を思い出すとすると、電撃のように胸が痛いから注意して顔を浮かべないように思い出してみる。それでも、しくしくと心臓が痛む。

「……どうしょ」

困った事態だ。

健二はあさってには東京に帰るそうだが、顔を合わせる度にこんなことになっていたら変に思われる。

第一、命の恩人に申し訳ない。

「……どうしょ」

結局この事態を好転するどんな方法も思いつかなくて、佳主馬は茹でダコになる寸前まで湯船で考え続けていた。

普段は納戸で夜明かしをしようとするどひどく怒られるのだが、今日は部屋数が足りないからと、むしろ佳主馬の希望を推奨してもらっている。好都合だ。

一応OZにログインして思い当たる症例を当たって、何の病気が確認しようとしたが、膨大なデータベースを誇るOZでも、この状況の明確な答えは教えてくれなかった。

わりと早い段階であきらめて、納戸に持ち込んだ布団の中に収まる。

(どうしよう……)

健二はあさって、東京に帰るそうだからそこまで避けていよいよなんとかごまかせないかと思った。

健二が東京に、佳主馬が名古屋に帰ってしまったら、早々会う機会もなくなる。

(そっか……帰ったらもう、会えないんだ)

そう思った瞬間、胸の奥に激痛が走る。

「痛っ！」

思わず胸を押さえて丸くなった。

これはまいよいよ深刻な事態なのかもしれない。

(本格的に、やばい、かも……)

両親の顔を思い浮かべる。これはもしかしたら不治の病かもしれない。まだ見ぬ妹が、生まれてきてくれることを感謝する。

(僕が死んでも、妹がいる……)

少し安心して、それからなんとなく健二の顔を思い浮かべた。

(死んだら、東京と名古屋がどうかじゃなく、会えなくなるのか……)

当たり前のことを考えて、また、胸が痛い。

「佳主馬くん？ 寝ちゃった？」

「わ！」

いきなり声をかけられて、文字通り跳び起きた。

跳び起きる、ということとは現実にはできることだったのかと佳主馬は妙に感心してしまう。

「ごめん、驚かせちゃったみたいだね」

健二が納戸の戸口に心配そうな顔をして立っている。手にはすいかのつたお盆を持っていた。サイコロ状にカットしてガラスの器に盛られている。

「健二さん……なに？」

まさかたつた今ぼんやりと「あなたのことを考えていた」とは言えなくて、ついぞんざいな口ききになってしまう。

「いや……晩ご飯、ほとんど食べてなかったでしょ？ 固形物厳しくても、すいかならほとんど水だし食べられるかも、って思っ」

「あ……りがと……って、母さんは？」

また顔が真っ赤になっている。本当にさっきから自分はおかしい。

健二は「入るよ」と断って中に入ってきた。

佳主馬の布団の脇にべたりと腰を下ろす。

(うわ……近い……)

今さらのことにどきどきする。

「布団、ちょっと畳む。汚したら怒られる」

佳主馬が床をあげることに少し不安そうな健二の顔はなるべく見ないようにした。

◆◆◇PLANET ZERO～SWside◇◆◆

PLANET ZEROは、鷹村あいの個人サークルです。

現在は

サマーウォーズ・カズケン

おおきく揃りがぶって・浜田×泉

にて主に、有明開催イベント・オンリーイベントを

中心に活動しております。

【新刊】

18禁 五月祭 (A5/64P/¥600(カズケン))

OZの創作記事に、OZのアミューズメントパークへお泊り旅行にやってくる佳主馬と健二。

楽しいとばかりを想像してやってきた健二だったが、佳主馬はあることをきっかけに姿を消してしまう。工口あり。

「聖美さんたちは今、壊れた家の修理代金試算してる。万助さんたちは明日、どうやってお客さん迎えるか庭に出ていろいろ寸法測ってるよ。さすがに部外者が口はさめないしね。だから逃げてきた」

笑顔の健二に、佳主馬は「ああ」と合点する。

明日は栄にゆかりのある人たちが総出でやってくるのだ。半壊した屋敷をどうやって見れる状態にするかは、大きな課題だ。

(……布団畳んでも、当たり前だけ近いよね)

近いからどうだというのか。佳主馬はますます深まる自分の謎に息をついて、健二の持ってきてくれたすいかに手を伸ばした。

紅い実はひと口大にカットされるか、フォークで刺して食べられるようになっている。口に運ぶと甘くのどが潤う。

(甘い……)

「こっこのすいかってさ、すごい甘いよね。東京で食べるのより確実に甘い、って思うんだ」

健二の言葉に佳主馬は頷く。

(甘い……すぐ……)

「名古屋にもこんな甘いものないし」

「あ、やっぱり？」

健二は佳主馬の言葉ににっこり笑った。

至近距離で見た笑顔は、あまりにも鮮やかだった。上田の田舎の空の色よりくっきりしていると思った。

「……」

どくどくと心臓が鳴る。

笑ってくれていること、それだけでたただうらしい。

(ああ……)

近くにいること。それはイヤなことではちっともない。できればもうちょっと、あとほんのわずかでもいいから。

(もっと近く、行きたいな……)

「健二さんも食べたら？」

「いっい？ やった」

「って、フォーク最初から二本だし。一人分にしては量、多すぎ」

「ババァ？」

健二が笑うから、とてもうれしい。

(そっか、僕は……)

健二が紅い実を口に運ぶ。しゃくしゃくと同じ小気味よい音をたてて、小さな種を吐き出して。

二人で一緒にすいかを食べている。

それが、どうしようもなくうれしいと思っている。

(僕は、健二さんのことが……)

【既刊】

18禁 Virtual Reality (A5/58P/¥600(カズケン))

OZの新ブランドテストの「バイト」を覗きつた健二は、架空の上

田で毎晩佳主馬と二人きりの時間を過ごす。工口あり。

18禁 感情の曖昧な境界 (A5/68P/¥700(カズケン))

佳主馬・高一、健二・大二設定。

高校進学を機に上京してきた佳主馬と過ごす日々。健二は、徐々に佳主馬に対する気持ちに変化していく自分に戸惑う。

工口あり。

18禁 いちわる (A5/32P/¥300(理栓))

映画本編後の理栓話。

佳主馬の質問に答えるべく、一方的に名古屋に出向く理一。佳主馬相手にとつとつと語る執着と本音。佐助の本心。工口あり。